

# 専念寺通信

六月号 (NO. 130)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

梅雨の季節がやって参りました。災害にあった地方はまだまだ復興がすすんでいません。とりわけその地方に大雨が降りませんようにと祈りつつ、水無月をむかえました。

## ☆嵐の施餓鬼会法要

5月29日は、台風が接近し、梅雨前線といっしょになって、朝からあいにくの雨になってしまいました。前日からテントを前庭にはって、受付にもテント、天気予報を見ては、なんとか台風がそれてくれないかと思っていましたが、時おり小雨になる以外はずっと雨になりました。受付を始める少し前から檀家さまが次々にいらっしゃいます。傘をさしてもびしょぬれになるほどの強い雨のなか、一步、一步足を踏みしめて、いつときは受付に行列ができるほどで、結局全部で198名の檀家さまが出席されました。タオルを用意しましたが、背広の上着からズボンまでぐしょ濡れの方も多く、できるかぎり本堂にお入り



いただくようにつとめました。ただ、テント席の前方のかたは、雨が時々飛び散っていく様子で、とても気がかりでした。今年の施餓鬼会は、震災の寄付を寺としてもさせていただきたいむね、住職がご案内状に書き添えました。募金箱を用意しましたが、あらかじめ「義捐金」などの上書きをして準備なさる方も多く、悪天候の中、よくおいでくださったと、皆さまのおやさしい、頼もしい生きる姿勢に、頭の下がる思いが

致しました。皆さまから寄せられた篤いお気持ちを無駄にすることのないよう、必要経費をのぞいたすべてを「日本赤十字」に寄付させていただくことに致しました。住職が皆さまあてにお手紙を書き、先日発送させて頂きました。詳細はその手紙をご覧くださいと思います。直接、現地に行くのが一番なのですが、せめて、被災地の皆さんの力にほんの少しでもなれたらと、住職ともども思っております。



## ☆節電と絆

今回の震災で、節電が呼びかけられました。デパートや駅なども全体に照明を落としています。自動販売機も一部、電気を消しています。けれど、そうしてみると、この程度の明るさで充分なのではと思えてきます。少しずつ少しずつ、明るくなって来ていたため、都市のむやみに明るいネオンサインや看板に対しても、私たちは鈍感になっていたのかもしれませんが、節電自体は、ふだんから心がければ、誰にとっても迷惑になることではないし、このままずっと少しずつ少しずつ、20年前程度におさえて行けばよいのでは、と思います。また、地震がきっかけで家族の絆が深まった、という話もよく耳にします。関東地方にいても、揺れを感じたときに、まさきに家族のことを考えた、また、家族に連絡をとりたかった、という人が多く、さらにはそれがきっかけで、家族の大切さを再確認した、というのです。地震とそれに続く津波、そして何より原子力発電所の深刻な事態、どれをとっても非常に厳しい、つらいできごとばかりなのですが、ほんの少しだけ、よいことがあるとしたら、人間の心の結びつきや、思いやり、絆、というものに気づいた人が多く出た、ということかもしれません。これを、良いほうへ、さらにゆっくりと良いほうへとすすめてゆければと思います。

平成23年6月1日 大黒